

薬 劑 部

1 構 成 員

	平成18年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（1人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	20人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	26人

2 教員の異動状況

橋本 久邦（教授）（H6. 4. 1～H18. 3. 31）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成17年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（1編）
そのインパクトファクターの合計	13.29
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Muramatsu H, Horii T, Takeshita A, Hashimoto H, Maekawa M: Characterization of fluoroquinolone and carbapenem susceptibilities in clinical isolates of levofloxacin-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *Chemotherapy* 51: 70-75, 2005.
2. Naito T, Itoh H, Katagiri F, Hashimoto H, Takeyama M: Monitoring plasma neuropeptide-

like immunoreactivity levels in a patient given Hange-koboku-to for a week for swallowing reflex disorder. Jpn J Pharm Health Care Sci 31: 585-590, 2005.

3. Naito T, Shinno K, Maeda T, Kagawa Y, Hashimoto H, Otsuka A, Takayama T, Ushiyama T, Suzuki K, Ozono S: Effects of calcineurin inhibitors on pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide metabolite during the maintenance period following renal transplantation. Biol Pharm Bull 29: 275-280, 2006.
4. Nakamura R, Umemura K, Hashimoto H, Urano T: Less pronounced enhancement of thrombin-dependent inactivation of plasminogen activator inhibitor type 1 by low molecular weight heparin compared with unfractionated heparin. J Thromb Haemost 95: 637-642, 2006.

インパクトファクターの小計 [7.99]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Horii T, Muramatsu H, Iinuma Y: Mechanisms of resistance to fluoroquinolones and carbapenems in *Pseudomonas putida*. J Antimicrob Chemoth 56: 643-647, 2005
2. Horii T, Muramatsu H, Monji A, Miyagishima D: Release of exotoxin A, peptidoglycan and endotoxin after exposure of clinical *Pseudomonas aeruginosa* isolates to carbapenems in vitro. Chemotherapy 51: 324-331, 2005.
3. 山田 浩, 森田みつ子, 久米ひさ子, 木村路子, 高井伸彦, 江口哲世, 勝又美由紀, 乙部恵美子, 齊藤葉子, 後藤かな子, 可知茂男, 橋本久邦, 渡邊裕司, 大橋京一, 梅村和夫: CRC 養成のための模擬患者によるインフォームド・コンセント研修の試み 臨床薬理36: 209-213, 2005

インパクトファクターの小計 [5.30]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 村松英彰, 鈴木吉成, 橋本久邦: アルベカシンの新旧薬物動態パラメータの比較・検討, TDM研究22: 119-120, 2005

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 柴田悠喜, 山川花朱美, 橋本久邦: オーダエントリーシステム中で実用化された臨床検索システムとその応用 — ユリノーム新規処方患者の抽出と副作用状況 —, 医薬の門46: 35-39, 2006.
2. 内藤隆文: 第40回ASHPミッドイヤー臨床薬学会議に参加して, 日病薬誌42: 385-386, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋本久邦 編集：器官別病態生理と治療薬 第2版 — EBMに基づく薬物治療のために — じほう社刊

4 特許等の出願状況

	平成17年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成17年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (71万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (130万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

内藤隆文（代表者）：科学研究費補助金「血液透析時におけるミコフェノール酸およびそのグルクロン酸抱合体の体内動態の評価」71万円（継続）

(2) 厚生科学研究費

橋本久邦（分担者）：「高齢者における薬物代謝関連遺伝子情報を考慮した適正な薬物治療の基盤整備に関する研究」130万円（継続）代表者 臨床薬理学教室 渡邊裕司

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Naito T, Shinno K, Maeda T, Kagawa Y, Hashimoto H, Otsuka A, Ushiyama T, Suzuki K,

Ozono S: Effects of calcineurin inhibitors on pharmacokinetics of mycophenolic acid and its glucuronide at maintenance period following renal transplantation. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2005 Midyear), December 2005, Las Vegas, USA.

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	1件

(3) 学内共同研究

渡邊裕司（臨床薬理学教室）高齢者における薬物代謝関連遺伝子情報を考慮した適正な薬物治療の基盤整備に関する研究

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	0件